

平成29年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 南丘 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生は、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	11.0	74	5.1	57	11.6	77	4.9	44
全国	11.2	75	5.2	58	11.8	79	5.1	46

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	・漢字の読み書きについては全国平均を上回っている問題もあるが、日々の練習、読書、辞書をひく等の基本的な学習を繰り返し行う必要がある。 ・「読むこと」の領域において正答率が低く、表現の工夫を捉えたり、必要な情報を読み取ったりすることが苦手である。
	よくできた問題	・ことわざの意味を理解して自分の表現に用いる問題の正答率が高かった。
	努力が必要な問題	・目的に応じて、文章の中から必要な情報を見つけて読む問題の正答率が低かった。

国語B	全体的な傾向や特徴など	・「読むこと」に加え、「書くこと」の領域においても正答率が低かった。目的や意図に応じ、引用して書いたり必要な内容を整理して書いたりすることが苦手である。
	よくできた問題	・目的や意図に応じ、適切な言葉遣いで話す問題の正答率が高かった。
	努力が必要な問題	物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめる問題の正答率が低く、無回答率も高かった。

算数A	全体的な傾向や特徴など	・「数と計算」領域における単純な加法、減法、除法の正答率は高かったが、「図形」と「数量関係」の領域の問題の正答率が低く、苦手としている。 ・平行四辺形の底辺と面積との関係に関する問題においては、無回答率も高かった。
	よくできた問題	・商を分数で表す問題の正答率が高かった。
	努力が必要な問題	・整数の乗法の計算と未知の数量を表す口を用いて問題場面を除法の式に表す問題の正答率が低かった。

算数B	全体的な傾向や特徴など	・「量と測定」に関しては全国平均を上回っているが、「図形」と「数量関係」の領域の問題の正答率が低く、苦手である。 ・記述式の問題形式で無回答率が高い。問題の意味を考え、順序立てて記述していくことに課題がある。
	よくできた問題	・示された考えを解釈し、数を変更した場合も同じ関係が成り立つことを図に表現する問題の正答率が高かった。
	努力が必要な問題	・問題に示された二つの数量の関係を一般化して捉え、そのきまりを記述する問題の正答率が低く、無回答率も高かった。

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概

質問紙調査の結果分析	
・「授業では、先生から示される課題や学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え自分から取り組んでいたと思いますか。」の問いに、61%の児童が、「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と答えている。また、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。」の問いに、53%の児童が「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と答えており、どちらも全国平均を下回っている。主体的な学習の仕方について、課題がある。	・「家で学校の宿題をしていますか。」の問いに、100%の児童が「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と答えているが、「家で自分で計画を立てて勉強すること」は53%であり低い。朝食を毎日食べ、毎日同じくらいの時刻に寝ている児童が多く、生活習慣としてよい傾向にあるが、携帯電話やスマートフォンの使用時間、テレビやビデオの視聴時間は長い。家庭生活の過ごし方について、課題がある。
・「自分にはよいところがありますか。」の問いに、63%の児童が、「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と答えている。また、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか。」の問いに、85%の児童が、「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と答えており、どちらも全国平均までには至っていない。学習指導や生徒指導を通して、自尊感情を高めていく必要がある。	

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ・学力向上や自尊感情の向上に関する職員研修を計画的に実施し、全職員で共通理解・共通実践を行うようにする。
- ・学力向上のための特設時間(パワーアップタイム)を設定し、漢字練習や計算練習を充実させる。
- ・アシストシートや基礎学力定着支援システム「学力サポートシステム」を活用し、学力の向上を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・「生活がんばり表」で、起床・就寝時刻、睡眠時間、家庭学習の時間の調査し、その結果を使って児童や保護者に啓発を行う。
- ・「家庭学習チャレンジハンドブック」や「南小倉中学校区家庭学習のすすめ」を活用し、家庭学習の指導・支援を行う。
- ・各学級の家庭学習マイスター賞を決め、展示を行い、児童への啓発を行う。